

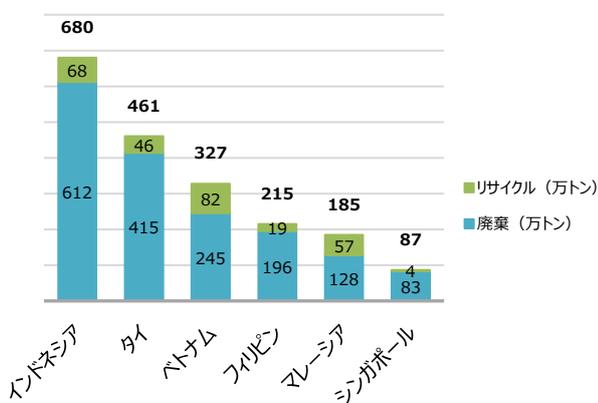
ベトナムにおけるプラスチックリ

サイクルのサステナビリティ

ベトナムの大きな資源「プラスチック廃棄物」

ベトナムはプラスチックの需要が大きく、年間約390万トンのプラスチック（PET、LDPE、HDPE、PP）が使用され、大量に廃棄されているが¹、図1（2021年）に示すようにリサイクルされるのは約82万トン（約25%）と少なく、約245万トンが廃棄されている²。

【図1】プラスチック廃棄物のリサイクル量（2021年）



出典：Fiin Group

そのため、ベトナムのプラスチック廃棄物は十分に活用されていない経済資源と考えられている。十分に活用されていない理由には次のようなものがある。

1つ目は「リサイクル施設が非効率」であること。主にインフォーマルセクター（工芸村など）で古い技術や設備のもとリサイクルされているが、その製品はローエンド市場向けとなり、また正規のリサイクル企業はほとんど地場企業で需要の約30%（2021年）しか処理できていない³。ベトナム最大の処理能力を有する [Lien Minh](#) で年間約7.5万トン（2021年）である⁴。また業界上位

¹ 出典：世界自然保護基金のレポート「[ベトナムにおけるプラスチック廃棄物のリサイクルを促進するための現状、解決策](#)」（2022年）

² 出典：Fiin Groupのレポート「[ベトナムにおけるプラスチックリサイクル産業を促進するためのソリューション](#)」（2022年）

³ 出典：世界自然保護基金のレポート（同上）

⁴ 出典：Fiin Groupのレポート（同上）

⁵ 出典：世界自然保護基金のレポート（同上）

10社のうち日本との合併会社は [QMT JP Plastic](#)（同約2.5万トン）のみと日本からの投資も小さい。

2つ目は「廃棄物の品質が低く、処理コストが高い」こと。国内の廃棄物は分別できておらず不純物が多く含まれているため、クリーンな輸入資源に比べて損失率（回収された廃棄物のうちリサイクルできないものの割合）が高い⁵。 [Duy Tan Recycling](#)（プラスチックリサイクル大手）の発言（2023年12月）によると、欧州の損失率は10~20%程度に過ぎないが、ベトナムは最大40%近くになることがあるようだ⁶。

3つ目は「法的施策のガイドラインが不十分」であること。プラスチック廃棄物管理に関する近年の規制（リサイクル製品の基準や含有率の義務化など）は効果的な実施に向けた詳細なガイドラインが不十分なため、製造業者や輸入業者は効果的な回収ネットワークの構築に苦労している。

プラスチックリサイクル産業の将来性

プラスチックの需要が大きく、プラスチック廃棄物が多いことに加え、持続可能な開発のための「グリーン」トレンドを考えると、同市場は今後成長する可能性が高く⁷、実際に2024年から2032年にかけて年平均約7.6%で成長すると予測されている⁸。

政府の動向に目を向けると、プラスチック産業の成長とプラスチック廃棄物の不適切な処分に伴う問題の対処に取り組んでいる。その1つが「拡大生産者責任（EPR）規制」（2024年1月1日施行）。これにより製造業者や輸入業者は自主的、第三者への委託、ベトナム環境保護基金（[VEPF](#)）への資金拠出によりプラスチック包装を回収、リサイクルしなければならない⁹。

⁶ 出典：B&Companyのインタビュー調査（2023年12月）

⁷ 出典：世界銀行のレポート「[プラスチック循環の機会、障壁](#)」（2021年）

⁸ 出典：IMAC Groupのレポート「[ベトナムのリサイクルプラスチック市場](#)」（2023年）

⁹ 出典：VnEconomyの記事「[ベトナムは毎年180万トンのプラスチック廃棄物を排出している](#)」（2024年2月）

【図2】EPR規制のリサイクル率（2024～2026年）

製品・包装	リサイクル率
硬質 PET	22%
硬質 HDPE、LDPE、PP、PS	15%
硬質 EPS、PVC	10%
その他の硬質プラスチック包装	10%
単一素材の軟質プラスチック包装	10%
複数素材の軟質プラスチック包装	10%

出典：環境保護法の一部条項に関する細則 ([Degree No. 08/2022/ND-CP](#))

持続可能な開発という観点から、特にプラスチックに大きく依存する産業では再生プラスチックの需要が増加している。例えば、包装業界はより環境に優しい代替品を模索しており、再生プラスチックに注目している。

[Coca-Cola](#)（清涼飲料水）、[Pepsi](#)（同）、[La Vie](#)（ミネラルウォーター）、[TH](#)（乳製品）、[Nutifood](#)（同）などの大手ブランドは完全に再利用可能、リサイクル可能、または堆肥化可能な包装への移行を公約している。

近い将来、外国への輸出を目指す再生プラスチック製品はグリーン基準を満たさなければならなくなり、その材料の需要が急増すると予測される。例えば、EUの「使い捨てプラスチック指令」ではEUは2025年までに包装用プラスチック材料の50%を再生利用することを約束している¹⁰。さらに、地域社会の意識が向上していることから廃棄物の分別と回収の問題も改善されつつある。世界自然保護基金 ([WWF](#)) のレポート（2022年）によると、ベトナムは2021年時点で約50%の世帯が廃棄物を分別しているが、2019年の約31%から大幅に増加している¹¹。

「開発余地」、「グリーントレンド」、「政府目標」の掛け合わせにより、ベトナムのプラスチック廃棄物のリサイクル産業は今後も力強い成長を続けていくだろう。

¹⁰ 出典：Bao Kinh Te Do Thi の記事「[プラスチック廃棄物のリサイクル市場は持続的に発展する必要がある](#)」（2024年3月）

¹¹ 出典：世界自然保護基金のレポート「[ベトナムにおけるプラスチック廃棄物のリサイクルを促進するための現状、解決策](#)」（2022年）

